

## 「勝早桜5」北海道推奨種雄牛に選定

前号「肉牛通信Beef Up! No. 15」において紹介した種雄牛「勝早桜5」(写真1)(ジェネティクス北海道所有)の現場後代検定成績が出揃いました(表1)。BMSNo.の平均は6.9、上物率は驚異の78%と非常に優秀であり、ジェネティクス北海道歴代トップとなる現場後代検定成績を叩き出しました。特に去勢牛の成績が秀逸であり、BMSNo.の平均は7.0、上物率は80%となっています。BMSNo.12を筆頭にBMSNo.10以上も5頭出ています。

枝肉重量についても、去勢牛の平均479kgと道内平均並もしくはやや上回る成績となっています。



写真1 「勝早桜5」(ジェネティクス北海道にて繋養中)

表1. 「勝早桜5」の現場後代検定成績

性	頭数	上物率 (%)	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値	BMS No.
去勢	25	80.0	28.2	478.6	60.3	8.2	2.2	74.7	7.0
めす	16	75.0	29.6	450.3	61.2	8.0	2.9	74.5	6.6
全体	41	78.0	28.7	467.6	60.7	8.1	2.5	74.6	6.9

また、2013年3月北海道育種価評価では、初めて「勝早桜5」の育種価が評価され、脂肪交雑において堂々の4位(約700頭中)を記録しました。ジェネティクス北海道所有の種雄牛ではトップです。さらに、ロース芯面積でも5位、バラ厚でも2位とすべての枝肉形質においてバランス良く高い能力を示しています(図1)。



写真2 「勝早桜5」産子

24年12月11日開催十勝子牛市場に一早く「勝早桜5」の去勢産子が上場されました。日齢256日で体重307kgと発育良好で、51万6千円とまずまずの価格で落札されました。

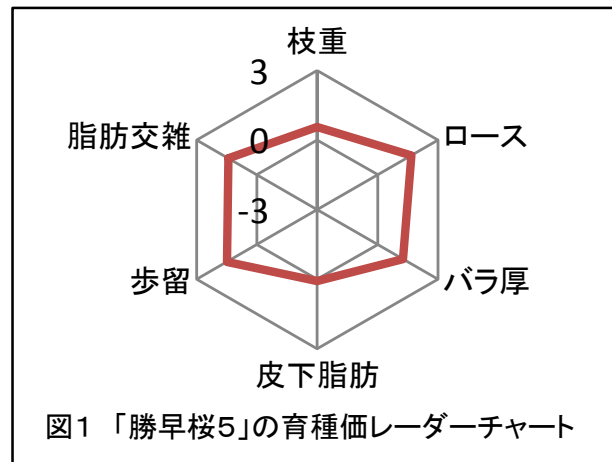


図1 「勝早桜5」の育種価レーダーチャート

先日北海道和牛振興協議会により、これら現場後代検定成績と育種価の結果を受けて、「勝早桜5」を平成25年度の北海道推奨種雄牛として選定することが発表されました。畜試生産種雄牛としては、初めてのことであり、関係者一同とてもうれしく思っているところです。しかし、私たちが一貫して目指してきたのは「繁殖牛改良向け種雄牛」です。今後、「勝早桜5」産子繁殖牛としての能力をしっかりと調査していきたいと考えています。

# 「勝早桜5」繁殖牛を全道共進会へ

前ページでも述べましたが、畜試では「勝早桜5」の繁殖牛改良向け種雄牛としての能力を調査するために、いち早く「勝早桜5」産子繁殖牛を育成しています。そこで、全道の生産者の皆さんに「勝早桜5」産子繁殖牛がどんな体型・資質であるかを実感してもらうために、9月14～15日開催全道共進会において「北海道繋養種雄牛および北海道産種雄牛産子の部」に参考出品することになりました。

早速、肉牛グループでは共進会準備に着手しましたので、その取り組みを紹介いたします。

## 出品候補牛



503Z(H24.1.13生)  
父:勝早桜5 母の父:糸桜10



512Z(H24.1.22生)  
父:勝早桜5 母の父:金幸



513Z(H24.1.22生)  
父:勝早桜5 母の父:隆安平



527Z(H24.2.3生)  
父:勝早桜5 母の父:平茂晴



今のところ「勝早桜5」の美点としては、

**「発育」、「胴伸び」、「皮膚・被毛」**が挙げられます

畜試では、以前全国和牛能力共進会に種雄牛を出品したことはありましたが、共進会での繁殖牛の出品は今回が初めてということもあり、6月5日(水)には、酪農畜産協会・栗生部長を迎えて(写真3)、



写真3 熱心に指導する栗生部長



写真4 鹿の角を使用した鼻環取り付け



共進会に向けた調教方法、ブラッシング、飼養管理について指導を受けました。また、同日には、鹿の角を使用した鼻環の取り付けを行いました(写真4)。今後は、毎日の繋ぎ調教、ブラッシング、体測、毛刈りなどを順次行い、最終的には状態の良い3頭を出品する予定です。

# 「楽チン」はこうやって作る！！

前号「肉牛通信Beef Up! No. 15」において「楽チン」による去勢法を紹介したところ、予想以上の反響がありました。そこで今号では、「楽チン」の作り方を紹介します。使い方も簡単だけど、作り方も簡単なのです。

肉牛グループ 研究職員 遠藤哲代 & 主任 後藤日出男

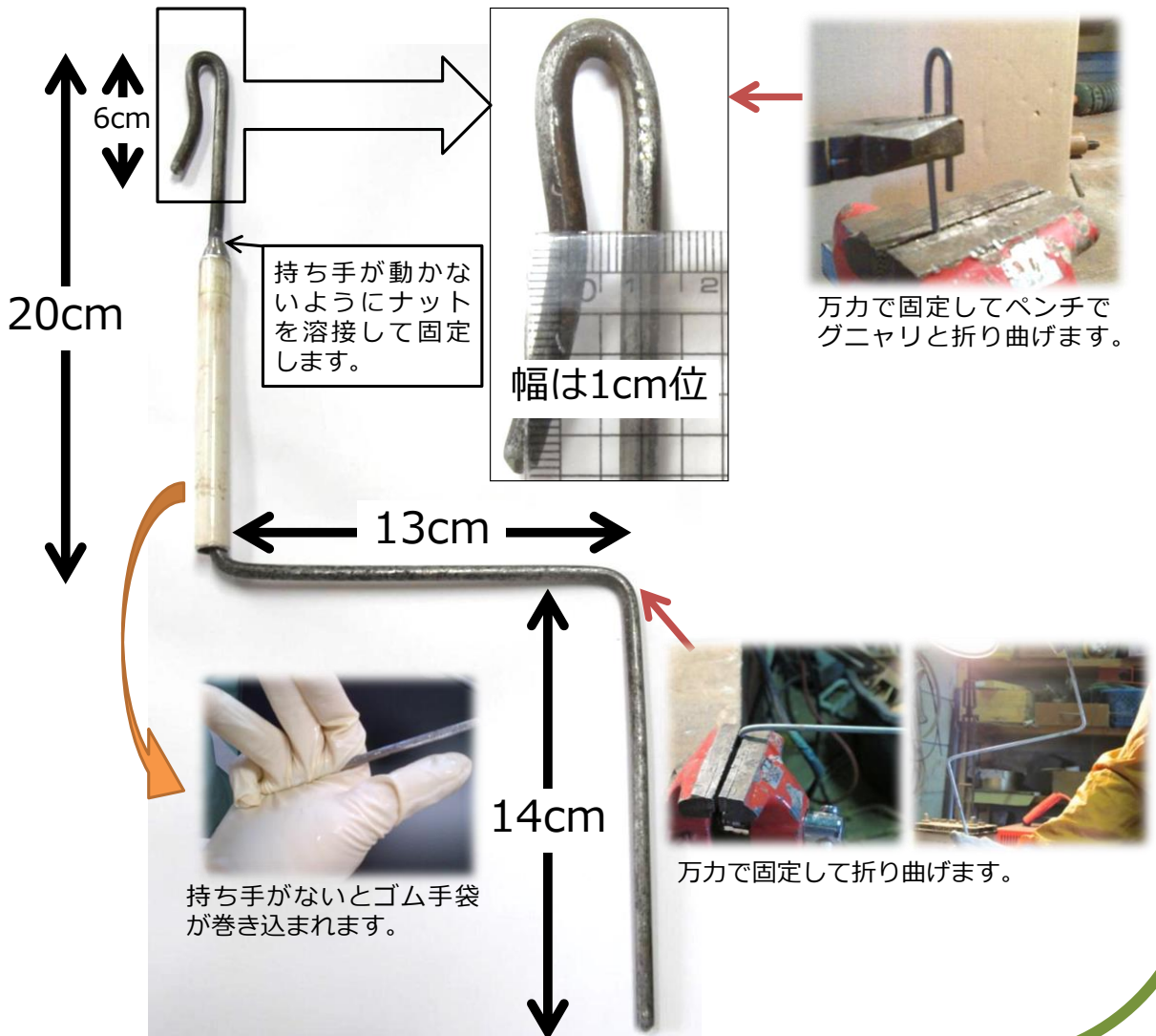
## 楽チンの作り方

### 材料

- ① 本体: 鋼鉄線等 (直径3mm位)
- ② 持ち手: プラスチックの筒等
- ③ 持ち手固定: ナット



畜試ではワイヤーメッシュの切れ端を使っています。



# 牧草サイレージ育成牛の枝肉出ました

遠藤研究員が試験課題「牧草サイレージ利用型黒毛和種肥育素牛育成技術の確立」の進捗状況をいち早く紹介いたします。

平成23年度から開始した経常研究「牧草サイレージ利用型黒毛和種肥育素牛育成技術の確立」の課題では、黒毛和種去勢牛の育成期にどうやって牧草サイレージ（GS）を給与したら良いか検討しています（写真5）。

肉牛グループ 研究職員 遠藤哲代



写真6 GSで育成した肥育牛の出荷直前の様子



写真5 GSを食べる育成牛の様子

今回、試験牛を出荷して枝肉成績が出ましたので紹介します。出荷牛の内訳は、慣行育成が5頭、4～9ヵ月齢までGS給与が6頭、5～9ヶ月齢までGS給与が6頭の計17頭です。肥育期は全頭、当場の慣行法で肥育しました（写真6）。育成期にGSを給与しても、枝肉の脂肪が黄色くなることはなく、BFS（牛脂肪色基準）は全頭3、枝肉重量、胸最長筋面積、BMS No. は平成24年度の全道平均並みでした（写真7）。平成26年末にこれらの試験結果を成績書として取りまとめる予定です。

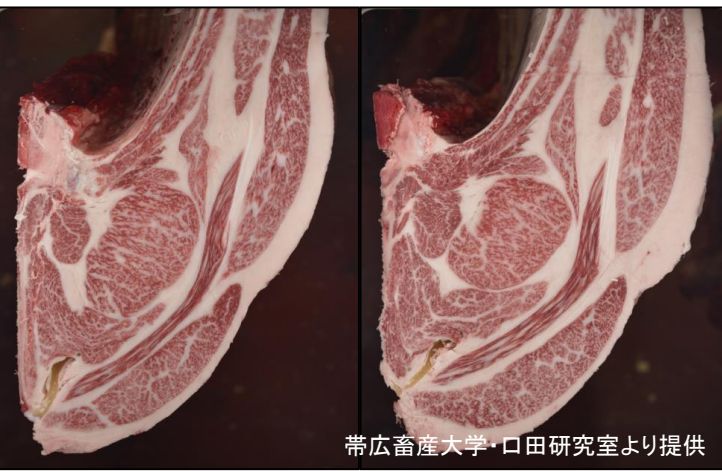
## おもしろスナップ

タイトル: 早朝の腕まくら

投稿: 遠藤哲代



「朝の発情監視の時に撮影しました」



帯広畜産大学・口田研究室より提供

写真7 GSで育成した肥育牛の枝肉写真

皆さまからのおもしろスナップをお待ちしています！採用された方には、「にこにこウッシーグッズ」を差し上げます